

し。

〔今昔物語^{二十}〕佛眼寺仁照阿闍梨房託天狗女來語第六

今昔京ノ東山ニ佛眼寺ト云フ所有リ、其ニ仁照阿奢梨ト云フ人住ケリ、^中七條邊ニ有ケル薄

打者ノ妻ノ女ノ年卅餘許也ケルガ、此ノ阿闍梨ノ房ニ來タリ、餌袋ニ干飯ヲ入レテ、堅キ鹽和布

ナド具シテ持來テ、阿闍梨ニ奉テ云フ様、自然承ハレバ、貴ク御マスト聞テ仕ラムノ志有テ參タ

ル也、^略下

〔宇治拾遺物語^八〕昔あたごの山に久しくおこなふ聖ありけり、年比行て坊をいづる事なし、西の

かたに獵師あり、此聖をたうとみて、つねにはまうで、物たてまつりなどしけり、ひさしくまい

らざりければ、餌袋に干飯など入てまうでたり、^略下

〔平治物語^二〕信賴降參事并最後事

去程ニ信賴卿ハ義朝ニ被捨テ、八瀬松原ヨリ取テ被返ケリ、ソレ迄ハ、侍共五十騎計有ケルガ、^中

略 散々ニ落行シカバ、乳母子、式部大輔計ニゾ成ニケル、餘ニ疲レテ見ヘ給ヘバ、或谷河ニテ馬ヨ

リ抱下シ、干飯洗テ進セケレ共、今朝ノ鯢波ニ驚テ後ハ胸塞テ、ツラダニモ墓々敷吞入給ハ子バ、

増テ一口モ不召ケリ、

〔梵舜日記〕慶長四年閏三月二日、甚六勘七兄弟來、糰三袋持參也、廿九日、慶雲母儀妹兩人來、指樽

一、糰三袋、錫雙、次塗師甚左衛門シロ帯一本持參、

〔散木弃詞集^十〕つくしに侍りける比、す、くらにほし。の有けるをみて、

す、くらにふるきほしむぞつきもせぬ

〔常食喰様曳歌〕糰こそ昔も今も別義なし鹽と砂糖の違ひ計ぞ

有僧